

HIRAOKA Kindergarten Presents

季刊

# 湘南自然誌

Vol.37

July 2th 2025

神奈川県・湘南  
地域の自然を  
再発見する

特集

## ホンチ相撲

横浜市地域無形民俗文化財



クモで遊ぶ文化が  
横浜にあった。



ネコハエトリ♂  
(ハエトリグモ科・通称ホンチ)  
*Carrhotus xanthogramma*

園児と自然に触れ合う中から生まれた

四季のコラム

園児や地域の皆さんからの  
投稿写真を季節毎に掲載

湘南発 みんなでつくる！

生きものの図鑑

自然からのメッセージを子どもたちへ

平岡の自然教育の今

県立愛川ふれあいの村  
吉田文雄学芸員によるコラム

心が育つ幼児教育

遊んで学ぶ生きものについて

知育ゲーム

# 四季のコラム 春

本誌発行元の平岡幼稚園の園便りに掲載したコラムを一部改編してお届けします。

文／堀田 佳之介（平岡幼稚園 園長）

## 2025年春に園内で繁殖した鳥

シジュウカラ・モズ



2021年に園児たちと作って平岡の森に設置したシジュウカラのための巣箱。警戒しているのか、なかなか巣作りはしてくれませんでした。ところが今年のGW前のある日、近所の小学生が「巣箱に鳥が入っていくの見たよ」と教えてくれたのです。早速見に行くと、巣箱の中からピヨピヨと雛の鳴き声が聞こえてきます。少し離れて様子を見ると、親鳥と思われるシジュウカラの出入りも確認できました。これで園児たちと観察できると楽しみにしていたのですが…GW明けの様子を見に行くと、なんと巣箱は“もぬけの空”だったのです。ついこの間まで賑やかに鳴いていたのにどうしたことなのでしょう？何が起きたのか野鳥調査・観察グループ“こまたん”の斎藤常實さんに聞いてみたところ「シジュウカラは孵化から10日程度で巣立ちます」とのこと。どうやら無事に巣立った後だったようです。

また別の日、園児が平岡の森の小川で死んでるモズを見つけました。こちらも斎藤さんに見ていただいたところ「嘴の形やうっすら過眼線がは始めているところなど、モズの雛が巣立ってそれほど経っていない個体のようです」とのことでした。どんなトラブルがあったのでしょうか。死んでしまったのは大変残念ですが、県レッドデータブック2006で減少種（繁殖期）に指定されているモズの幼鳥を、園内で初めて確認することができました。

平岡の森は1,206㎡の小さな緑地ですが、園児だけでなく、鳥たちにとっても、大切な場所になっているようです。

1／シジュウカラ用に穴のサイズ等を調整して作った巣箱（2021年12月に設置）。 2／園内で毎年多く見られるシジュウカラ 3／ひょっこり顔を出すシジュウカラ。3年目にして初めての営巣となった。4／巣箱の中を観察。 5／モズの成鳥。 6ー7／園児が発見したモズの幼鳥の死体。

## 昼と夜、姿がちがう花がある！？

身近な花を観察してみよう



4月の初旬、平岡の森では樹木が一斉に芽吹き、花も咲きだして、華やかな春の風景に変わりつつあります。そんな中、一際鮮やかな黄色い花を咲かせているのが、今年初めて園内で見つけた南アフリカ原産の外来種「オオキバナカタバミ」です。

とある日の夕方薄暗くなってきた時のことです。昼間、綺麗に咲いていたオオキバナカタバミの花が、丸まり閉じている場面に出会いました。翌朝9時にもう一度見に行くと、ちょうど花びらが開く途中で、その後まもなく満開になりました。

昼夜で開閉する花は、タンポポ、ハルジオン、チューリップ、オオイヌノフグリなど色々あります。オオイヌノフグリは花びらを閉じることで雄しべを押し込み自家受粉を促すそうですが、そのほか多くの花では開閉する明確な理由はわかっていないようです。おそらく、ハチなど訪花昆虫の動きが活発になる日中に花開くことで、

受粉の効率を上げたり、不要なリスクの低減をはかったり、といった生態戦略なのかもしれません。

動物と違い、植物は動きを感じにくいですが、短時間で花びらが開閉するこのような例は、子どもたちが植物の「生命」を感じることで観察対象として好例になると感じました。

1～3 / オオキバナカタバミの花が開閉する様子 (①は4月7日17時、②は4月8日9時、③は4月9日16時、いずれも同一の花) 4 / セイヨウタンポポの花 (昼と夜の姿) 5 / ハルジオンの花 (昼と夕方) 6 / オオイヌノフグリの花 (昼と夕方)  
※昼間に閉じている花があったら、それは受粉が完了した花の可能性がある。

横浜市地域無形民俗文化財

Vol.37  
Special  
feature

# ホンチ相撲

～クモで遊ぶ文化が横浜にあった～

我が国には昔から虫で遊ぶ文化があったようで、江戸時代には「クモあわせ」という、ハエトリグモにハエを捕らせる遊びが流行した。横浜でも1960年代あたりまで、ホンチと呼ばれるクモを戦わせる「ホンチ相撲」が子どもたちを虜にしていたようだ。そんな遊びを今も愛し続ける横浜ホンチ保存会によって、毎年5月にホンチ相撲の大会が開かれていると知り、会場となる横浜市立金沢自然公園へ取材に行ってきた。「ホンチ相撲」とはどんな遊びなのか？大会の様子と共にお伝えしたい。

遊びを通じて  
人と虫が繋がる



ネコハエトリ♂  
(ハエトリグモ科・通称ホンチ)  
*Carrhotus xanthogramma*

取材したひとたち  
横浜ホンチ保存会

消滅の危機にさらされている横浜の「ホンチ遊び」を守ろうと、1983年に愛好者たちが集まり発足。このクモ遊びの文化の次世代への伝承に取り組んでいる。会の尽力もあり、2019年に「ホンチ遊び」は横浜市の地域無形民俗文化財に指定された。



1~4/ネコハエトリ (1・2オス=通称ホンチ、3・4メス=通称ババ)。同じ種とは思えないくらい色合いのバリエーションがある。ホンチ遊びの世界では腹部の色や模様に応じて様々な呼び名がある (1と4はアジロケツ、2はキンケツ、3はアカケツ)。5・6/ササやツツジ、マサキの日当たりのよい葉の上で見つかることが多い。

# 1 ホンチってどんなクモ?

家の中でビヨンッと飛び跳ねて逃げるハエトリグモ類を、皆さんも一度は見たことがあるだろう。その仲間のネコハエトリというクモのオスを、かつて横浜では「ホンチ」と呼んだ(メスは「ババ」。幼体(亜成体)で越冬し、4月の中頃から5月のはじめに成体が現れる。体長は標準的なもので7mmくらい。よく見ると丸い大きな目が可愛い。ハエヤカを食べてくれる益虫で、網は張らずに獲物に飛びついて捕食する。ホンチ遊びの世界では、腹部が金色のものを「キンケツ」、腹部の模様が魚を捕る網(網代/アジロ)に似ているものを「アジロケツ」というなど様々な呼び名があるが、それだけ色彩や模様に変異が多いクモだと分かる。

ホンチはオス同士が出会うと踊るようににじり寄り格闘する習性がある。その習性を利用して勝ち負けを競う遊びが「ホンチ相撲」だ。

## ホンチを捕まえるには?

昔はどこにでもたくさんいたホンチ。今は餌となる虫の減少・農薬の散布などの影響か、少し場所を選ばないと見つからない。成体が現れる桜が散るころに、マサキ、ササ、ツツジなどの垣根、植え込みを探すと見つけやすいようだ。もし見つけたら、下に帽子や網をあてがい、その中へそつと誘導して捕まえよう。

飼育するなら、2〜3日に一度小さめのハエヤカを与える。餌の確保さえできれば、小さな箱でも飼えるそうだ。

ちなみに、ホンチ相撲は大きい個体が圧倒的に有利とされるため、愛好家は大きなホンチが捕れる場所を見つけても、「ヒミツの場所」として誰にも教えないという。ならば交配によってより大きなホンチを産み出そうと、横浜ホンチ保存会のある会員さんは8年間も累代飼育してみたそうだ。しかし残念ながら大きいものは産まれず、やはり大きなホンチは足を使って探すしかないようだ。



ホンチのダンス 前脚を左右に振って威嚇するホンチ。踊るような仕草がとてもコミカルで愛らしく、見ていて楽しい。

## 2 ホンチ 相撲とは？

かつて横浜の小中学生を中心に盛んに遊ばれていた「ホンチ相撲」。クモを戦わせる遊びは西日本を中心に暖かい地方で広く行われていたようだが、ネコハエトリのオスIIホンチを戦わせる遊びは多くなく、元々房総半島の漁師の間で遊ばれていたものが、横浜や三浦半島の漁港に伝えられたらしい。

当時はホンチ相撲は誰もが上級生から自然に教わるもので、ベーゴマ遊びやメニコ遊びと並ぶ人気を誇ったそうだ。ある保存会の会員さんは、毎年4月頃に駄菓子屋に大量に並び出すホンチ箱・ガブリ箱（ホンチを入れる箱）を見ると、「ホンチの季節が来たぞ！」と、ワクワクソワソワして勉強が手に付かなくなったらしい。

ホンチは6月ごろまでには一生を終えるため、5月中にはホンチ遊びの季節は終わることとなる。なのでその前に、今期一度も負けたくないホンチの持ち主による決戦が行なわれたそうだ。この時ばかりは大勢子どもたちが集まり、大声をあげて盛り上がったのだとか。

ちなみに、ホンチ遊びをしていたのは必ずしも子どもだけではなく、横浜の繁華街伊勢佐木町では大人向けに、生きたホンチ自体が売られていたそうだ。かつては大人も子どももホンチ相撲に夢中になっていたのだ。

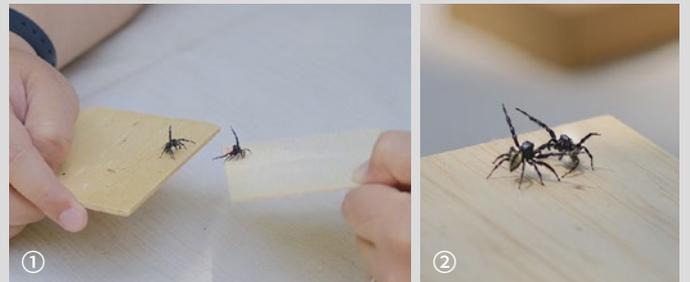
### How to play Honchi Sumo

## ホンチ相撲の遊び方

相撲が始まるとホンチは目まぐるしく入れ替わるため、誰のホンチが勝ったのかわからなくなることも。あらかじめ双方の特徴をよく目に焼き付けておこう。



行司が小さなハルサ板を巧みに操り、ホンチ同士を戦いへと誘導する。対戦者はその様子を固唾を飲んで見守るのだ。



- ① ホンチをそれぞれ別の小さな板に乗せてゆっくり近づけていくと、前脚を振り上げ、踊るような仕草の威嚇行動が始まる。
- ② さらに板を近づけると、片方のホンチが相手側の板に飛び移り、双方が威嚇しながらにじり寄っていく。
- ③ 蝕肢（昆虫でいう触角）を絡み合わせて力比べが始まる。
- ④ 戦意を失い逃げた方が負け。



Various tools

## ホンチ相撲の道具

ホンチを入れておく箱はかつて駄菓子屋などで普通に売られていたが、現在愛好者たちは、箱を始めさまざまな道具を自作している。愛好者の工夫が詰まった道具を紹介しよう。



ガブリ箱

かつて駄菓子屋や文房具店で1円で売られていた「ガブリ箱」。昭和のレトロな雰囲気がある。2cm四方程度の小箱で1匹用。2匹入れて片方を餌にするためにも使われた。(写真の箱は、所有者の工夫で、中のホンチが見えるよう上面にアクリル板が張られている。)



自作ガブリ箱

大会参加者の若者が持っていたもの。自慢のホンチを入れて持ち運び、友だちと戦わせて遊ぶ。シンプルな作りだが、色分けをするなど識別を容易にする工夫が見られる。



ホンチ箱

ホンチを複数匹入れられるスライド式の箱。昭和38年頃10円で売られていた年代物だ。複数持ち運べるのは便利だが、3連部屋となっているため中央の部屋を開けると端の部屋も開いてしまうという欠点がある。(写真の箱は、所有者によりホンチが見えるよう上面をガラス板に換装されている。)



ホンチ飼育器

ホンチは小さな箱でも飼えるが、より強いホンチを育てるためか、このようにできるだけ生息環境に近い状態を作って飼う人も。



木製ホンチ箱

愛好家自作のホンチ箱。2連部屋にして上記のホンチ箱の欠点を解消。工芸品のような精巧さにホンチ愛を感じる。



竹製ホンチ箱

参加者の子どもが持っていたもの。マジックテープで開け閉めできるようだ。



ホンチ捕獲機

釣り糸の先に付いたハエをホンチの前にぶら下げて、飛びついたら糸を手繰り寄せて捕獲するらしい。

しまう。そこで、ホンチのわずかな模様の違いや脚の長さ・太さの違い、さらには性格の違いまで識別できる熟練の会員が行司（審判役）を務め、勝ち負けの判断を下す。

試合が近づくなか、他の参加者のホンチを見せてもらおうと……我々のホンチとは明らかに別物！目に見えて大きく、いかにも強そうなのだ。持ち主に話を聞くと、大きなホンチを複数捕ってきてスパーリングをさせ、有望なものを数匹持ってきたそうだ。試合前の準備も面白く、出場させるホンチのそばにメス（通称ババ）を置いて闘争心に火を着けさせようとする人、体力をつけさせるためかホンチを箱から出して水を飲ませる人等々、皆独自の準備策があるようだった。

ついに我々のホンチの出番が来た。一発勝負であれば勝てるかもと少し期待していたが、そう甘いものではなく初戦で敗退。あまりの体格差に、行司から「逃げるが勝ち」と一言（笑）。前脚を振り上げて戦う姿勢を見せつつ逃げるという姿は、なんとも滑稽かつ愛らしかった。



2



6



5



4

“人は遊びを通して、生きものもっと幸せな関係を作ることができる”  
そうホンチ相撲が教えてくれたように思う。

1 / 大人の部の受付風景。若い人も多くみられる。2 / ホンチ相撲会場（横浜市立金沢自然公園）。3 / 我々が出場させたホンチ（右奥）。前脚を振り上げてやる気を見せつつも敗退。4 / キッズの部入賞者と末崎会長。優勝者はなんと5歳の幼稚園児（右から二番目）5 / 優勝トロフィー。歴代優勝者のペナントが歴史を物語る。他にも「チャレンジ賞」など多数の賞が用意されている。6 / キッズの部景品のアニメ絵の手製ホンチ箱。子どもに普及したいという保存会の思いがうかがわれる。

横浜市地域無形民俗文化財

# 特集 ホンチ相撲

～クモで遊ぶ文化が横浜にあった～

END



参考文献：『横浜の自然とホンチあそびの研究』（改訂版 1992年）横浜市こども植物園発行  
横浜ホンチ保存会創設40周年記念コメント集『ホンチ遊び永遠に』（2024年）横浜ホンチ保存会発行



### 3 ホンチ相撲に挑戦!



取材を終えて

3

今回我々が取材・参戦した横浜ホンチ保存会主催のホンチ相撲トーナメントは、1985年より開催されている歴史ある大会で、今年で第40回となる。ルールは、制限時間なし、逃げて戦意を失った方が負けとシンプルだ。今大会の参戦者はキッズの部10名、大人の部54名。大人の部は子どもどころホンチ遊びをしていた世代の方々ばかりなのかと思いきや、意外と若者の参加も多い。会員が捕獲してきたホンチを借りることもできるなど、はじめてホンチ遊びを知った人でも参加しやすくなっている。取材に来た私たちもその「レンタルホンチ」でエントリースイッチと思ったが、どうせなら自分で捕まえたホンチで挑戦したいところ。会場周辺でもホンチは見つかると聞き、急遽あたりの植え込みを探索してみたところ、なんとか一匹捕獲することができたので、そのホンチでエントリースイッチをした。

実際の試合は、ホンチがもつれて非常に素早く何度も体勢が入れ替わるため、見慣れない人はどっちがどっちなのか分からなくなって

4時間ほどかけて戦われたトーナメント。キッズの部は初参加5才のエイトくん、大人の部は保存会会長の末崎正氏が優勝した。自分の出番でなくても食い入るように試合を見つめ、展開に一喜一憂する参加者たちの姿が印象的だった。人と虫が遊びを通して繋がりが、年代を問わず皆童心に還ってしまう。ホンチを愛でる愛好家たちが醸し出す空気に飲まれ、クモが愛玩動物ように思えてくる空間であった。

そんな生きものと触れ合う喜びが詰まったホンチ相撲。この大人も子どもも熱狂させた虫遊びは、残念ながら1960年代あたりを境に衰退していく。急激な経済成長と共に町並みは一変し、住み良くなつたもののホンチ相撲のようない遊びながら自然と関わる文化は失われてしまった。

今回ホンチ相撲を体験し、愛好家たちにお話を伺う中で、環境問題の観点から自然保護を訴えるのいいが、「シンプルに楽しいから大切にしたい」という切り口にも大きな価値があると感じた。



皆さんの  
投稿写真を  
季節ごとに  
掲載！

湘南発 みんなでつくる！

# 生きものの図鑑 春



Explanatory notes

凡例 ① 場所・② 年月・③ 氏名

- ※ 対象地域は神奈川県です。
- ※ 同定者名の記載のないものは編集部(堀田佳之介)が同定。
- ※ 「県RDB2006」は、神奈川県レッドデータブック2006の略です。

みんなで身近な生きものの発見を楽しみながら、「いつ」「どこにいたか」という学術的なデータを集積していく図鑑です。

Mail QRコード



### どなたでも投稿できます

「写真」「撮影日」「撮影場所」「発見者名」をお送りください。種名がわからなくてもOKです。

投稿用メール [ikimono@hiraoka-kg.com](mailto:ikimono@hiraoka-kg.com)

Web Site



### 種名を検索できます

創刊号～今号に掲載されたすべての種を検索できます (WEB 限定)

平岡幼稚園 HP <http://hiraoka-kg.com/creature/>



ホソミイトトンボ♂

① 小田原市久野 同定：—  
② 2025年5月上旬 備考：県RDB2006 情報不足  
③ 堀田来佳



ムカシトンボ♀

① 小田原市久野 同定：—  
② 2025年5月上旬 備考：—  
③ 堀田来佳



ヤブヤンマ♀

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年4月中旬 備考：羽化間もない個体の死体  
③ 山田葉月



ヤブヤンマ羽化殻

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年4月中旬 備考：—  
③ 高野松菜



オニヤンマ幼虫

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年3月中旬 備考：—  
③ 鎌田一花



オニヤンマ幼虫

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年3月中旬 備考：—  
③ 橋本真白



オニヤンマ幼虫

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年3月下旬 備考：—  
③ 下田梨々美



オニヤンマ幼虫

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年3月下旬 備考：—  
③ 荒川碧



オオシオカラトンボ幼虫

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年3月中旬 備考：—  
③ 鎌田一花



オオシオカラトンボ羽化殻

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年4月中旬 備考：—  
③ 高野瑞喜



オオシオカラトンボ♀羽化

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年5月中旬 備考：左に見えるのが羽化殻  
③ 小泉穂十



ヤブキリ幼虫

① 平塚市岡崎 同定：—  
② 2025年4月中旬 備考：—  
③ 海老澤顕寿



ヤブキリ幼虫

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年4月下旬 備考：—  
③ 堀部信城



クビキリギス♀

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年5月下旬 備考：—  
③ 宮森鈴葉



クビキリギス♀

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年5月下旬 備考：—  
③ 川口紫雲



ケラ幼虫

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年5月中旬 備考：県RDB2006 要注意種  
③ 駒村風志



ノミバッタ

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年4月下旬 備考：—  
③ 笠畑大



ツチイナゴ

① 平塚市岡崎 同定：—  
② 2025年5月中旬 備考：—  
③ 下田加奈子



ショウリョウバッタ幼虫

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年5月中旬 備考：—  
③ 高野瑞喜



トノサマバッタ幼虫

① 平塚市岡崎 同定：—  
② 2025年5月下旬 備考：—  
③ 齋藤充希



ムネアカハラビロカマキリ卵鞘

① 南足柄市怒田 同定：—  
② 2025年2月中旬 備考：国外外来種  
③ 荒井啓三 期間外



アブラゼミ羽化殻

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年3月下旬 備考：—  
③ 齋藤壮汰



コチャイロヨコバイ

① 平岡幼稚園内 同定：—  
② 2025年5月下旬 備考：標本あり  
③ 堀田佳之介



ナベバタムシ

① 厚木市七沢 同定：—  
② 2025年3月下旬 備考：—  
③ 堀田来佳